

「二〇一九年の年頭にあたり」

木古内町議会議長

又 地 信 也



新年あけましておめでとうござい
ます。

二〇一九年の年頭にあたり、木古内町議
会を代表し、謹んでご挨拶を申し上げ
ます。町民の皆様におかれましては、
希望に満ちた輝かしい新年を迎えら
れたことと思います。心からお慶び申
し上げます。

さて、北海道新幹線木古内駅、道南
いさりび鉄道木古内駅、道の駅「みそ
ぎの郷きこない」が開業し、早いもの
で三年が過ぎようとしています。道の
駅「みそぎの郷きこない」には、オー
ブン以来150万人余りの来訪者があ
り、観光振興に大きく寄与しています。
我が町だけでなく連携する他町におい
ても相乗効果がみられ、広域観光拠点
としての役割が確立していることは、
この上ない喜びであります。これもひ
とえに商工会、観光協会、農協、漁協
が協力し官民一体となって取り組み、
成し得た賜物であり、感謝の念でいっ
ぱいあります。交通の要衝として栄
えた我が町のあるべき姿の再構築に向
け、意を新たにしたいものです。

「ウト」、体験したことのない想像を絶
する自然災害の驚異、私達が日常生活
に欠かすことのできない電気、水、そ
して食料という三大必需品が一つでも
欠けた時の不便さがとてつもない大き
な不安の要素であることを、嫌という
ほど思い知らされました。住む家を失
い、家族の安否を心配し、真つ暗闇の
中での生活、いまなお復旧と復興に努
めている最中ではありますが、二度と起
きることのないようお願い、一層の防災
と予知に努めなければなりません。幸
いにして当町では、大きな被害もなく
安堵しておりますが、災害のない、安
全で安心して暮らせるまちづくりをい
ままで以上に町民一丸となって推し進
めていかなければなりません。議員各
位、初心忘れることなく努めてまい
る覚悟であります。

保健、医療、福祉の充実、木古内
のまちづくりの永遠のテーマです。昨
年、十一月二日に木古内町病院事業の
一つとして「地域住民ふれあい事業」
が行われ、「地域医療とまちづくりを
考える」をテーマに講演会がありまし
た。いままさらながらに感じたことだ
が、地域において木古内町国保病院は、
とてつもなく大きな役割を担っている
ということであり、診療圏域の基幹病
院であることは勿論ですが、町の経済
の中核をなしているということの再認
識でした。雇用の場という意味とは別
に、地方に病院がなくなったらどうな
るのかという点でした。病院がなくな
ることは、町の衰退を告げる最大要因
であることです。

特別養護老人ホーム「いさりび」の
経営状況は、地域包括ケアシステムの
確立とあわせ、当初の目標と大差なく
順調な滑り出しのようです。

一次産業の振興では、農業、林業で
後継者が育成されつつありますが、漁
業においてはホタテの斃死やマコガレ
イ、タコ、鮭等の活魚の不漁で大変厳
しい現状にあり、天然ワカメ、養殖ワ
カメに歩を移しつつ、ウニ、アワビ、
ナマコ、ヒラメ、ソイ等、稚貝、稚魚
の放流を継続し、安定的な経営を図る
施策を粘り強く推し進める必要性を強
く感じております。浜に熱気を呼び戻
すためには、ともに考え前進したいも
のです。

茂辺地・木古内間の高規格幹線道路
の供用開始は、幸連5遺跡の発掘調査
のため2年先延ばしになりましたが、
文化財保護の観点からやむを得ないこ
とであり、無事に作業が進捗すること
を望んでおります。

サラキ岬沖に眠る幕末から明治初期
に帆船として多方面で活躍した咸臨丸
昨年合田一道氏を招聘し講話をいた
だきましたが、船の破片の調査が本年
も実施されるとのことでありますので
「サラキ岬に夢みる会」の会員の皆様
とともに、大きな期待のもと待ちわび
ております。

木古内町の本年度事業としては、昨
年12月13日に開会されました平成30年
第四回木古内町議会定例会で、公民館
とスポーツセンターの改修工事（二億
九千八百万円）を繰越明許費として議
決いたしました。平成31年度予算は
現在編成中であり、本年3月の第一回
木古内町議会定例会に提案の運びと
なっております。

春の息吹が感じられる頃になります
と我が町にもバス、トイレ付のホテル
がお目見えするようです。既存の宿泊
施設との競合がないことを願いつなが
り、どんなホテルになるのか期待する
ところでもあります。

昨年、天皇陛下の退位の報がありま
した。平成の世も終わり、新元号は5
月発表とのことですが、ことしの干支
は亥です。「猪突猛進」木古内町のさら
なる発展のため、町民とともに歩み、
より研鑽を重ね精進してまいれる所存で
す。

結びに本年も健康で良き年であるこ
とを願い、町民の皆様が一様に幸多か
れと祈り新年の挨拶をいたします。